

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年12月27日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自平成25年8月16日 至平成25年11月15日）
【会社名】	株式会社銚子丸
【英訳名】	Choushimaru Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 堀地 速男
【本店の所在の場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部次長 関根 健二
【最寄りの連絡場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部次長 関根 健二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期 累計期間	第37期 第2四半期 累計期間	第36期
会計期間	自平成24年 5月16日 至平成24年 11月15日	自平成25年 5月16日 至平成25年 11月15日	自平成24年 5月16日 至平成25年 5月15日
売上高(百万円)	8,538	8,795	17,969
経常利益(百万円)	395	436	972
四半期(当期)純利益(百万円)	224	240	551
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)			
資本金(百万円)	315	315	315
発行済株式総数(千株)	2,903	2,903	2,903
純資産額(百万円)	4,495	4,985	4,823
総資産額(百万円)	7,409	7,846	7,832
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	77.28	82.88	189.95
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
1株当たり配当額(円)			27.00
自己資本比率(%)	60.7	63.5	61.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	78	448	737
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	112	142	247
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	53	90	97
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	3,316	4,063	3,846

回次	第36期 第2四半期 会計期間	第37期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成24年 8月16日 至平成24年 11月15日	自平成25年 8月16日 至平成25年 11月15日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	16.86	15.27

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府・日銀による金融緩和をはじめとする経済政策への期待感から、円安や株価の上昇などを背景に、企業収益の改善や個人消費に明るさが戻るなど景気回復の兆しが見受けられた一方、来春の消費税増税による消費減退への懸念等、消費全般の基調は引き続き楽観視できない状況で推移しました。

外食業界におきましても、消費者マインドの回復は一部にみられるものの、円安による原材料高のリスクを抱えつつ、未だ家計の所得環境の好転にまでは直結していないことから、景気の先行きには不透明感が残り、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況において、当社は経営理念に掲げる「私達の『真心』を提供し、お客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します。」に基づいた「おいしい舞台」作りのために、「飽きの来ない旬の食材」「鮮度」「海の香り」「魚屋の精神」「番屋の雰囲気」を追求するとともに、「おいしい舞台」を完成させるために、「親切・思いやり・誠実さ」に溢れた接客・サービスを愚直に実践し、全社一丸となってお客様に愛される店舗づくりに邁進いたしました。

店舗開発につきましては、当第2四半期累計期間において、千葉ニュータウン店（平成25年10月）を新規に出店し、鶴川店（平成25年10月）を退店した結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は81店舗 となっております。

販売促進につきましては、銚子丸らしい商品の拡充と時節の食材によるイベントの継続的開催を実施し、お客様の来店動機高揚に努めるとともに、割引券やチラシといった販促ツールの効果測定を改めて行い、効率的な販売促進費削減を実施致しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は87億95百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益は4億18百万円（同10.2%増）、経常利益4億36百万円（同10.4%増）、四半期純利益は2億40百万円（同7.2%増）となり、増収増益となりました。

（注）金額に消費税等は含まれておりません。

#### (2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

##### （資産）

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ14百万円増加し、78億46百万円（前事業年度末比0.2%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前事業年度末に比べ42百万円増加し、48億58百万円（同0.9%増）となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加2億16百万円、原材料及び貯蔵品の減少1億16百万円であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ28百万円減少し、29億88百万円（同0.9%減）となりました。これは主に、減価償却及び閉店による店舗設備の減少によるものです。

##### （負債・純資産）

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ1億47百万円減少し、28億61百万円（前事業年度末比4.9%減）となりました。主な要因は次のとおりであります。

流動負債は、前事業年度末に比べ1億20百万円減少し、22億29百万円（同5.1%減）となりました。主な内訳は、未払金の減少68百万円及び未払法人税等の減少51百万円であります。

固定負債は、前事業年度末に比べ27百万円減少し、6億32百万円（同4.2%減）となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ1億62百万円増加し、49億85百万円（同3.4%増）となりました。主な内訳は、当第2四半期累計期間の四半期純利益2億40百万円及び第36期期末配当金の支払78百万円であります。

( 3 ) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して2億16百万円増加し、40億63百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

営業活動の結果獲得した資金は4億48百万円(前年同期は78百万円の使用)となりました。これは、税引前四半期純利益4億35百万円、減価償却費1億30百万円及びたな卸資産の減少額1億16百万円による資金の獲得、法人税等の支払額2億45百万円による資金の使用によるものであります。

( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

投資活動の結果使用した資金は1億42百万円(前年同期は1億12百万円の使用)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出84百万円、建設協力金の支払による支出46百万円による資金の使用によるものであります。

( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

財務活動の結果使用した資金は90百万円(前年同期は53百万円の獲得)となりました。これは短期借入金の純増加20百万円による資金の獲得ならびにリース債務の返済による支出32百万円及び配当金の支払額77百万円による資金の使用によるものであります。

( 4 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 5 ) 研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,800,000
計	10,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年11月15日)	提出日現在発行数(株) (平成25年12月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,903,600	2,903,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,903,600	2,903,600		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年8月16日～ 平成25年11月15日		2,903,600		315,950		236,829

(6) 【大株主の状況】

平成25年11月15日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社オール・エム	千葉県東金市南上宿19-5	784,000	27.00
堀地 かなえ	千葉市美浜区	360,000	12.40
堀地 ヒロ子	千葉市美浜区	335,160	11.54
堀地 速男	千葉県東金市	237,440	8.18
堀地 篤人	千葉県東金市	232,000	7.99
堀地 元	千葉市美浜区	48,000	1.65
銚子丸 社員持株会	千葉市美浜区浜田二丁目39番地	32,000	1.10
布施 栄一郎	千葉県市原市	3,000	0.10
ザ バンク オブ ニューヨーク トリートリー ジャスデック アカ ウント 常任代理人 株式会社三菱 東京UFJ銀行	千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部	2,900	0.10
本村 公弘	千葉市稲毛区	2,400	0.08
計		2,036,900	70.15

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年11月15日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,902,900	29,029	
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	2,903,600		
総株主の議決権		29,029	

【自己株式等】

平成25年11月15日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)銚子丸	千葉市美浜区浜田二 丁目39番地	200		200	0.01
計		200		200	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
代表取締役	社長	代表取締役	社長兼管理本部長	堀地 速男	平成25年9月16日
常務取締役		常務取締役	事業本部長	堀地 元	平成25年9月16日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成25年8月16日から平成25年11月15日まで）及び第2四半期累計期間（平成25年5月16日から平成25年11月15日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成25年11月15日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,254,019	4,470,249
売掛金	25,789	22,786
原材料及び貯蔵品	208,166	92,006
預け金	90,930	87,783
その他	237,029	186,108
流動資産合計	4,815,935	4,858,934
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,092,646	1,061,438
その他(純額)	501,246	489,990
有形固定資産合計	1,593,893	1,551,429
無形固定資産	53,060	48,977
投資その他の資産		
敷金及び保証金	807,288	800,551
建設協力金	282,202	280,576
その他	281,263	307,560
貸倒引当金	1,078	1,078
投資その他の資産合計	1,369,676	1,387,609
固定資産合計	3,016,630	2,988,015
資産合計	7,832,566	7,846,949
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	791,595	797,808
短期借入金	130,000	150,000
未払金	783,350	714,908
未払法人税等	261,117	210,107
賞与引当金	110,880	156,352
株主優待引当金	28,680	28,452
その他	244,005	171,558
流動負債合計	2,349,629	2,229,187
固定負債		
資産除去債務	168,004	167,788
長期未払金	359,700	359,700
その他	132,189	105,002
固定負債合計	659,894	632,490
負債合計	3,009,523	2,861,678

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成25年11月15日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	4,270,969	4,433,205
自己株式	696	696
株主資本合計	4,823,052	4,985,288
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10	16
評価・換算差額等合計	10	16
純資産合計	4,823,042	4,985,271
負債純資産合計	7,832,566	7,846,949

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第 2 四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 5 月16日 至 平成24年11月15日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成25年 5 月16日 至 平成25年11月15日)
売上高	8,538,459	8,795,819
売上原価	3,476,190	3,674,189
売上総利益	5,062,268	5,121,630
販売費及び一般管理費	4,682,228	4,702,940
営業利益	380,039	418,690
営業外収益		
受取利息	2,582	2,304
協賛金収入	11,395	13,570
その他	5,184	5,395
営業外収益合計	19,161	21,269
営業外費用		
支払利息	2,025	2,596
現金過不足	1,224	955
その他	551	-
営業外費用合計	3,801	3,551
経常利益	395,399	436,408
特別損失		
固定資産除却損	1,286	888
特別損失合計	1,286	888
税引前四半期純利益	394,113	435,520
法人税等	169,744	194,895
四半期純利益	224,368	240,625

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月16日 至平成24年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月16日 至平成25年11月15日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	394,113	435,520
減価償却費	132,378	130,652
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	23,144	23,201
賞与引当金の増減額(は減少)	12,600	45,472
受取利息及び受取配当金	2,591	2,313
支払利息	2,025	2,596
固定資産除却損	1,286	888
売上債権の増減額(は増加)	81	3,003
たな卸資産の増減額(は増加)	190,428	116,159
仕入債務の増減額(は減少)	20,785	6,212
未払消費税等の増減額(は減少)	13,568	3,536
その他	172,357	62,360
小計	207,307	695,496
利息及び配当金の受取額	578	549
利息の支払額	2,027	2,594
法人税等の支払額	284,678	245,048
営業活動によるキャッシュ・フロー	78,819	448,403
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	383,767	383,855
定期預金の払戻による収入	383,651	383,767
有形固定資産の取得による支出	58,440	84,993
無形固定資産の取得による支出	38,000	-
長期前払費用の取得による支出	-	7,800
敷金及び保証金の差入による支出	14,174	8,184
敷金及び保証金の回収による収入	2,992	4,921
建設協力金の支払による支出	5,000	46,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	112,737	142,144
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	600,000	250,000
短期借入金の返済による支出	440,000	230,000
リース債務の返済による支出	28,564	32,396
配当金の支払額	77,614	77,720
財務活動によるキャッシュ・フロー	53,820	90,116
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	137,736	216,141
現金及び現金同等物の期首残高	3,454,139	3,846,989
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,316,403	4,063,130

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月16日 至平成24年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月16日 至平成25年11月15日)
給料及び賞与	2,198,023千円	2,255,019千円
賞与引当金繰入額	85,300	156,352
株主優待引当金繰入額	17,506	16,991

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月16日 至平成24年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月16日 至平成25年11月15日)
現金及び預金	3,723,427千円	4,470,249千円
預入期間が3か月を超える定期預金	407,024	407,118
現金及び現金同等物	3,316,403	4,063,130

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成24年5月16日 至平成24年11月15日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年8月8日 定時株主総会	普通株式	78,389	27.00	平成24年5月15日	平成24年8月9日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成25年5月16日 至平成25年11月15日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月8日 定時株主総会	普通株式	78,389	27.00	平成25年5月15日	平成25年8月9日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券は当社の事業の運営において重要なものでないため記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、グルメ回転寿司事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成24年5月16日 至平成24年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年5月16日 至平成25年11月15日)
1株当たり四半期純利益金額	77円28銭	82円88銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	224,368	240,625
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	224,368	240,625
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,903	2,903

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月27日

株式会社銚子丸

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銚子丸の平成25年5月16日から平成26年5月15日までの第37期事業年度の第2四半期会計期間（平成25年8月16日から平成25年11月15日まで）及び第2四半期累計期間（平成25年5月16日から平成25年11月15日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銚子丸の平成25年11月15日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。